

ENVI5.4 リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<http://www.harrisgeospatial.com/ProductsandSolutions/GeospatialProducts/ENVI.aspx>

これらリリースノートは次の項目に分かれています。

- ENVI5.4 のサポートプラットフォーム
- ENVI5.4 の新機能
- ENVI5.4 の既知の問題
- ENVI5.4 で修正された問題

ENVI5.4 のサポートプラットフォーム

ENVI5.4 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。

これからソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) が必要になります。

| プラットフォーム | ハードウェア | オペレーティングシステム | サポートバージョン ^b |
|-----------|---------------------------------|--------------|-----------------------------|
| Windows | Intel / AMD 64-bit ^a | Windows | 8, 10 |
| Macintosh | Intel 64-bit | OS X | 10.10, 10.11 ^c |
| UNIX | Intel / AMD 64-bit | Linux | Kernel 2.6.32 glibc 2.12 |

a: ENVI5.3 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの ENVI を起動する場合は、「ENVI5.4/IDL8.6 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI / IDL の起動方法」をご確認ください。

b: サポートされているバージョンは、当該バージョンで ENVI が構築されているか (表中の最低バージョン)、またはテスト済みであることを示しています。表に記載されたバージョンとバイナリ互換があるバージョンであれば、ENVI のインストールと実行が可能です。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.7.11 にて動作確認をしております。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

ENVI5.4 の新機能

ENVI5.4 の新機能については ENVI ヘルプのトップページ「What's New in this Release」という項目をご参照ください。

ENVI5.4 の既知の問題

問題が起こった際は、リリースノートの既知の問題を参照してください。ID 番号はお客様からのお問い合わせに早急に対応できるよう記されています。

| ID | 解 説 |
|-------------|--|
| ENVI-70066 | 2 枚の GF-1 WFV 画像を開くと、表示に問題がでる 2 枚の Gaofen-1 画像を同じ View で開くと、画像にギャップが発生します。 回避策：複数の Gaofen-1 画像を表示する際は、別々の View に表示してください。 |
| ENVI-70110 | GLT による Georeference は南極の極座標投影で、問題が発生する GLT を生成するのに Lat/Lon のデータを使用すると、南半球の極座標投影の Georeference 画像では中心付近の描画に穴が発生します。 |
| ENVI-70139 | Raster Series をアニメーション表示中、ベクターレイヤを作成すると、一時的にベクターレイヤの表示が消える Raster Series をアニメーション表示中にベクターポリゴンを描画して完了すると、ポリゴンレイヤが消えます。 回避策：ベクターポリゴンの描画中はアニメーションを一時停止するか、1 フレームごとのステップ表示にしてください。 |
| LIDAR-68971 | ENVI LiDAR で canCreate と canCopy がサポートされていない |

| | |
|--|---|
| | め GDAL が JPEG を作成できない |
| 出力投影法が緯経度座標の場合、JPEG の orthophoto は作成できません。 回避策： 1. 出力投影法を緯経度座標以外にする。 2. TIFF や ENVI 形式の画像フォーマットを使用する。 | |
| LIDAR-69052 | 任意座標(arbitrary coordinates)を使用すると、ENVI LiDAR は feet 単位のプロダクトを出力できない |
| プロダクト作成時、出力座標系設定で単位がメートルに設定されていることを確認してください。この問題を回避するためプロジェクト作成時に正しい投影法を選択してください。 JPEG2000 は Rigorous Orthorectification (ENVI フォトグラメトリーモジュール) ではサポートされていません。この問題が影響するのは、SPOT-6、SPOT-7、Pleiades です。 | |

ENVI5.4 で修正された問題

| ID | 解説 |
|------------|---|
| ENVI-68871 | GeoEye ステレオプロダクトの RPC オルソの出力が正しくない |
| ENVI-70472 | 特定の PCI.pix ファイルを読めない |
| ENVI-70673 | ヘッダファイルでセンサタイプが AVIRIS と設定されていない場合、AVIRIS データで NDVI ツールがクラッシュする |
| ENVI-70708 | ENVIRPCOrthorectificationTask ルーチンが取得時間のメタデータを保持しない |
| ENVI-70712 | MODIS ボウタイ補正ツールを使用すると線状ノイズが発生する |
| ENVI-70755 | ENVI::OpenRaster の EXTERNAL_TYPE キーワードが SRTM DEM をサポートしていない |
| ENVI-70790 | Sentinel Data Hub からダウンロードされた Sentinel-2 データを正常に読めない |
| ENVI-70791 | Gaofen-1、2 データセットから ROI 統計を正しく計算できない |
| ENVI-70814 | ニアレストネイバによるピクセルリサイズが想定通りの動作をしない |
| ENVI-70816 | ENVI GainOffsetRaster が単バンドラスタのゲイン/オフセット値をスカラとして認識しない |
| ENVI-70817 | WorldView-3 SWIR NITF データを NITF フォーマットに保存しない |

| | |
|------------|---|
| ENVI-70819 | コンフュージョンマトリックスは画像のオーバーラップを決定するのに地図情報の代わりに XSTART と YSTART の値を用いる |
| ENVI-70820 | TIFF 形式に出力する際、Data Ignore Value を保存しない |
| ENVI-70825 | RPCOrthorectification ルーチンが TIL ファイルの取得時間を保存しない |
| ENVI-70832 | ビューが回転していると、Export View to Image File メニューでタイル状ノイズが発生する |
| ENVI-70835 | タイムシリーズに属する低解像度ラスタを用いた際 Gram-Schmidt パンシャーペンが正常に動作しない |
| ENVI-70838 | ASTER Level-1A プロダクトを ASTER プロダクトとして読み込まない |
| ENVI-70840 | ENVI Classic が Web Mercator 投影法をサポートしない |
| ENVI-70846 | Rigorous Orthorectification で無効な座標の GCP を入力した際に間違ったエラーメッセージが表示される |
| ENVI-70853 | 新しいクラスのクラス統計を実施するとエラーメッセージが表示される |
| ENVI-70855 | レイヤマネージャからラスタを削除してラスタを追加するとその間 ROI ツールが点滅する。 |
| ENVI-70856 | Query Spectral Indices ダイアログがエラーメッセージを表示する |
| ENVI-70861 | API から Enterprise ジオデータベースファイルを開けない |
| ENVI-70873 | THOR Material Identification ヘルプの表に誤記がある |
| ENVI-70887 | レイヤスタックツールで、無視するデータ値と同じ値を持つラスタを入力しても考慮されない |
| ENVI-70890 | Rigorous Orthorectification ツールが ADS40 データをオルソできない |
| ENVI-70892 | NDVI ツールが WorldView-2 データで Landsat TM のデフォルトバンド番号を使用する |
| ENVI-70900 | ジオポイントメタデータの正しい順序が記載されていない |
| ENVI-70905 | DEM Extraction ツールはワークフロー実行前に視差を閾値まで減少させることを要求する |
| ENVI-70909 | ENVIQueryTask で、戻り値の順序がダイナミックユーザインターフェースの順序と整合しない |
| ENVI-70920 | 2 枚の校正済み ABHRR 画像でシームレスモザイクツールが失敗する |

| | |
|-------------|--|
| ENVI-70921 | QUAC ツールが、一部のピクセルを矛盾した NoData 値に設定する |
| ENVI-70922 | スペクトルインデックスツールがまれに NoData 値を扱わない |
| ENVI-70929 | NPP VIIRS データの不正ピクセル値を無視しないため、正しい地理情報にならない |
| ENVI-70930 | ニアレストネイバで内挿された NPP VIIRS ジオリファレンスデータが予期しないピクセル値になる |
| ENVI-70936 | Sentinel-2 スペクトル応答データが正しくない |
| ENVI-70942 | ENVI API で Sentinel-2 取得時間メタデータにアクセスできない |
| ENVI-70965 | 長いバンド名が表示されているとバンドアニメーションツールは正しくリサイズできない |
| ENVI-70976 | 特徴抽出の SVM 分類パラメータ“ポリノミアルカーネルの次数”のデフォルトが 1 になっていた。より適切な値は 2 |
| ENVI-70985 | バーチャルラスタでタイポイントを生成できない |
| ENVI-70988 | ENVIMasiRasterTask が無視するデータ値として 0 以外の十進数の浮動小数点を割り当てない |
| LIDAR-68745 | 生成された DEM がノイズを含む |
| LIDAR-69071 | 2GB 以上の LAS ファイルを作成できない |
| LIDAR-69077 | "Save This Project as" オプションが Project Properties ダイアログで動作しない |
| LIDAR-69078 | "Load Palette" ドロップダウンリストが Height Palette エディタで空になっている |
| LIDAR-69097 | カーソルが行の最後にジャンプするため Processing ダイアログで Products Folder を変更することが難しい |
| LIDAR-69100 | Point Inspector が QA モードで正しい Intensity の値を与えない |
| LIDAR-69101 | 出力で再投影され生成された DEM が正しくない |
| LIDAR-69107 | Windows10 で ENVI LiDAR のナビゲートウィンドウの一部が表示されない |
| LIDAR-69108 | 樹木と電線を同時に処理すると、結果が悪くなる |
| LIDAR-69109 | ENVI LiDAR の中で、UTM ゾーンの計算が正しくない |
| LIDAR-69110 | ENVI LiDAR から ENVI で画像を開く際に、現在のセッションを使用せずに新セッションを開く |

| | |
|-------------|--|
| LIDAR-69114 | 別プログラムでロックされている以前の結果を用いて再処理すると ENVI LiDAR がクラッシュする |
| LIDAR-69115 | Convert Format ダイアログや Select Coordinate System ダイアログで UTM のデータムとして NAD83 を選択できない |
| LIDAR-69116 | 南半球から作成された成果の地理情報が正しくない |
| LIDAR-69122 | ENVI LiDAR の File > Open メニューが最後に開いたデータセットのフォルダを覚えない |
| LIDAR-69124 | ENVI API を使用して AgerPoint から LAZ ファイルを読むと IDL がクラッシュする |